

仕上げ



工場の心臓部である回転機械を整備する仕上げ工。大型コンプレッサーから小型ポンプまで、幅広い知識と繊細な技量で現場を支えています。

仕上げ工の仕事

工場の動力源となる発電タービンや、液体を高所に押し上げるポンプなどの機械は、一定の使用期間ごとに整備をしなければいけません。そこで活躍するのが仕上げ工。これらの機械を分解して、部品が消耗したり損傷した箇所を修理・交換・清掃し、再度組み上げるのが主な仕事です。

仕上げ工が関わる機械は回転部分があることが多いため「回転機」と言ったり、回転= 動く機械なので「動機械」とも言ったりします。扱う機械の種類は大小さまざま。ジェットエンジンのようなものから手のひらサイズのポンプまで多岐にわたります。

「仕上げ」と言われる理由

回転機や動機械などの最重要箇所であるシャフト部分は精密部品なので、分解・整備・再組み込みには精緻な作業が要求されます。また、これらの回転機や動機械は部品数が多く、部品管理にも細心の注意が必要です。このように他の職種にはない繊細な「職人技」が求められるため、ある種の敬意を込めて「仕上げ」と呼ばれています。

仕上げ工の仕事には、例えば自動車くらいの大きさの機械の整備はクレーンを使って分解するなど、大掛かりな作業もあります。でも基本的には部品を分解/再組み込みすることが多いので、細かい手仕事が好きなお人に向いている仕事ではないでしょうか。

仕上げ



将来性がある仕事ですか？



さまざまな工業製品を生産する各種工場には必ず、多種多様な機械が設置されています。それらの整備は今後もなくなることはありませんので、将来性は十分にある仕事です。

仕上げ工の数はまだまだ不足しています。でも、これからは単に整備するだけではなく、より長持ちする整備方法をお客様に提案したり、お客様に代わって機械メーカーのエンジニアと折衝したり、多くの仕上げ工を束ね安全品質を担保したメンテナンス計画を立案したりと、技量と技術の両面を兼ね備えた人材が求められるようになります。



海外でも活躍できますか？



工場の心臓部であるガスタービンなどの回転機械を整備する需要は、国内外を問わず非常に高いものがあります。なので世界中に活躍の場はありますし、実際に多くの仕上げ工が海外で活躍しています。

仕上げ工は他の職種に比べ、一人前になるための時間が掛かると言われており、海外でも人材育成に力を入れています。あなたも世界をまたにかけるような仕上げ工を目指してみませんか？

免許&資格

- ・機械保全技能士
- ・ボイラー整備士
- ・消防設備士
- ・危険物取扱者
- ・クレーン運転士
- ・玉掛け技能講習など

